災害復興学会大会（2022・京都）論文書式

−副題−

Format for Summary of JSDRR Annual Conference 2022/Kyoto

— Sub title—

○復興太郎\*1，神戸花子\*2

Taro FUKKOU, Hanako KOBE

# １．はじめに

この文書は2022年10月に京都府宇治市で開催される日本災害復興学会大会（2022・京都）で用いられる統一講演要旨集のフォーマットに従って書かれています。縮小はせず，A4判で印刷製本します。

# ２．原稿執筆要領

## 2.1　内容

講演要旨原稿には，研究の目的，手法，結果を明確に記述するように心掛けて下さい。記述が不十分なものは掲載を認めない場合があります。表題，本文，図表，写真などにおいて特定の企業などの宣伝行為と見なされるような表現は避けてください。

## 2.2　ページ数

原稿はA4判用紙4頁または2頁とし，余白ページをできるだけ残さないようにしてください。MS-Word形式の書式（本ファイル）を学会のサイトからダウンロードしてご利用下さい。

## 2.3　原稿の作成および書式

原稿の余白は，天：22mm, 地：25mm, 左右：12mm, ヘッダー：12mm，フッター：12mmとし，本文は２段組で作成して下さい。段間のマージンは2文字分とします。使用するフォントは表題や見出しは MSゴシックやArielなどのゴシック系を，本文その他にはMS明朝やTimes New Roman などの明朝系を使用して下さい。特殊なフォントはできるだけ避けてください。必要な場合は PDF 作成の際に埋め込むようにしてください。文字の大きさは，表題に対しては11ポイント，発表者氏名と本文に対しては10ポイントを使用して下さい。行間は1行とします。1行の文字数は25文字，行数は45行となります。図中の説明等は、印刷して見える限りにおいて小さな文字を使用しても構いません。ヘッダーには明朝系フォントを利用し「日本災害復興学会大会（2022･京都）［改行］JSDRR Annual Conference – 2022/Kyoto」と記述します。ヘッダー・フッター内の改行幅は1行とします。フッターの1行目には横棒を引き，次の行から所属を，和文を左側に，英文を右側に並べて書きます。所属先が2ヶ所以上の場合は必要なだけフッター部を拡張し本文の行数を削ってください。フッターの右下には著作権表示があります。このフォーマットのままとするか学会ホームページよりひな形をダウンロードし，この部分には手を触れないでください。

## 2.4　論文の表題

論文の表題は11ポイントのゴシック系のフォントを使用し，原稿左段１行目に書きます。副題が必要ならば２行目に記述して下さい。副題の文字の大きさは10ポイントとします。3行目には10ポイントのフォントを用いて英文題目を書き，必要に応じて副題を4行目に書きます。大きさは日本語表題と同様とします。

## 2.5　発表者氏名

和文著者名には明朝体系フォントを使用し，5行目に右寄せで書き，英文氏名を6行目に右寄せで記述して下さい。連名の場合は発表者名の前に○印を付けて下さい。

氏名の右肩に\*1,\*2のように注釈をつけ，フッターに，本文との間に罫線を引いたうえで所属を明記して下さい。

## 2.6　見出しと本文

大見出しは行頭から『１．はじめに』のように書き，小見出しは『1.1　小見出し』などとして下さい。大見出しと小見出しにはゴシック系，本文には明朝系のフォントを使用し，行間は1行ポイントにして下さい。

## 2.7　図・表・写真

図表および写真は本文に出てくる順番に合わせ，それぞれに図1や写真1などと番号をつけてレイアウトし，図および写真の場合は番号とタイトルを図・写真の下，表の場合は表の上に明記して下さい。図表および写真は著作権許諾がとれているもので，鮮明なものに限ります。

## 2.8　参考文献

参考文献には引用順に番号を付け，本文末尾に記述します。著者名（発行年）：文献名，雑誌名，発行元，Vol., No., 開始ページ-終了ページ．の順に記述して下さい。

## 参考文献

1. 災害三郎（2017）：災害復興とは何か，日本災害復興学会誌Vol. 1, No.1, pp.1-4.